



© 2010 熊本県くまモン

しゅつどひん ちいきれきし こうかいじゅぎょう 出土品から地域歴史を学ぶ公開授業

文化課では、装飾古墳館と連携して、本年度から小学校を対象に公開授業を実施しています。テーマは「見て、触れて、感動して」で、目的は「郷土くまもとの文化財や先人の業績に触れ、子どもたちがふるさとに誇りを持ち、次世代に伝えていく心を育む」ことです。

本年度は、博物館等から遠く、本物を見る機会が少ない地域から実施していこうということで、球磨郡湯前町の湯前小学校と八代市南部に位置する二見小学校の2校で行いました。

まず、湯前小学校では、社会科の授業で、弥生時代から古墳時代までの遺跡で発掘された本物の出土品を見ながら地域の歴史を学習しました。さらに、授業後半には、弥生時代の遺跡から発掘された勾玉を参考に勾玉づくりをして、さらに学習を深めました。

一方、二見小学校では、夏休みの学校行事として体験学習を取り入れた八代地域の歴史学習を行いました。児童たちは、二見小学校集周辺にある文化財を学んだり、八代地域で発掘された出土品から弥生時代から平安時代までの生活を学んだり、縄文時代の弓矢や勾玉づくりを体験するなどさまざまな活動を通して歴史を学習しました。

今回の公開授業のあと、「こんな身近に大昔のものがあることにびっくりした」とか、「大昔の人たちがどんなものを食べていたかをもっと勉強したい」などの感想がありました。本物から得た感動や新たな学習意欲が出た児童がたくさんいたことに、授業を実施した私たち担当者も感慨深いものがありました。そして、公開授業を通して改めて「文化財は活用されてはじめて文化財の価値が出る」ことに気づかされました。



湯前小学校での社会科の授業の様子



勾玉づくりの体験活動



本物の出土品について学習する児童の様子

レッツ タイムスリップ!

いにしえ
～古の熊本へ～

夏休み遺跡発掘体験・見学会と秋の遺跡現場公開の開催

文化課では、夏休みを利用しての「夏休み遺跡発掘体験・見学会」と10月～11月に「くまもと教育の日」関連事業として「秋の遺跡現場公開」を毎年開催しています。県民の皆さんに埋蔵文化財発掘調査について理解を深めていただき、地域の歴史を学ぶ機会として発掘調査の現場を一般公開しています。特に児童・生徒の皆さんに本物の土器や石器にふれる感動を味わっていただくために発掘体験などの体験学習を取り入れています。

今年の夏は北園上野古墳群（水俣市陳内）、託麻弓削遺跡群（熊本市東区弓削）、清水町遺跡（八代市清水町）、上南

部遺跡（熊本市東区上南部）の4カ所、秋は託麻弓削遺跡群、上南部遺跡、北園上野古墳群の3カ所で実施しました。夏・秋のべ7会場合わせて400人近い参加者があり、なかには複数の会場に参加された方もいらっしゃいました。

「いっぱい発掘できたのでよかったし、家の近くにあるなんてびっくりしました。」などの感想があり、参加した子どもたちにとっていい体験の機会になっています。



発掘体験の様子（託麻弓削遺跡群5区・秋）

第8回熊本県文化財調査報告会 熊本 ば！ 発掘する



多くの県民の皆様にも、県内の発掘調査の成果や本物の文化財に触れる事で、素晴らしい感動を味わってほしい、自分達が住んでいる身近なところにもあることに気づき、この熊本の歴史に興味関心とともに郷土への誇りをもっていただくことを目的に報告会を開催しています。

今回は記録的な大雪の日（1月24日）での実施でしたが、多くの考古学ファンに参加していただきました。



高床倉庫ペーパークラフト

体験学習のコーナーには、高床倉庫ペーパークラフト、折り紙かめ棺作り、出土品プラホビーなど子どもが楽しめるコーナーを設けました。高床倉庫のコーナーには、本物のネズミ返しも展示しました。実物の大きさに大人も子どももびっくりしていました。

プレゼン・ポスターセッションでは、文化課の取組み内容を大型スクリーンやポスターで発表しました。今回は、県内の埋蔵文化財発掘調査、文化財保護の取組み、鞠智城温故創生館からの報告、そして更に初の試みとして宇土市からは藤泉水道、湯前町からは4月に認定された人吉球磨の日本遺産について発表していただき、市町村にも協力いただいていた報告会となりました。



幡・津留遺跡についての講演

更には、弥生時代の巨大集落跡幡・津留遺跡の講演会も行いました。発掘調査等で出土した遺物を見たり、触れたりすることもでき、たくさんの県内の文化財に触れていただきました。

こふんじだい ぼうむ 古墳時代の葬るところと住むところ

きたそのうえの こふんぐん
—北園上野古墳群—

北園上野古墳群は、平成元年の学術調査によって、地下式板石積石室墓（板石積石棺墓ともいいます。）が見つかったことで注目されました。現在、この遺跡一帯約15,000㎡の範囲で、国土交通省による南九州道西回り自動車道芦北出水道路水俣インターチェンジ建設事業に先立ち、発掘調査を行っています。遺跡からは、地下式板石積石室墓のほか、堅穴建物跡も見つかっています。

堅穴建物跡は、弥生時代～古墳時代頃に造られた住居跡と考えられます。この時代に特徴的な、石包丁や鉄器が伴わず、磨石、石皿やドングリの実が大量に出土することから、水稲耕作が行われていなかったと考えられます。

一方で、青銅鏡の一部が検出されており、同時代の拠点の集落、例えば嘉島町二子塚遺跡、山鹿市方保田東原遺跡との関係が注目されます。

地下式板石積石室墓は、鹿児島県川内市を中心に、水俣、芦北、天草などで見つっていますが、水俣や芦北一帯で見つかる地下式板石積石室墓は、平面が円形もしくは楕円形を呈し、屍床に玉砂利を敷くことが特徴的です。これまでに直径3～2m程度の墓坑と考えられる円形の遺構が12基検出されています。

北園上野古墳群は、平成元年の調査では5世紀前半頃と推定されていました。今回の調査では、副葬品の一部とみられる鉄鏃も出土しています。また、石の積み方などの痕跡が残っていることから新発見の遺構と考えられより詳細な時期と構造の解明が期待できます。

今回の発掘調査によって、古墳時代の葬るところ（地下式板石積石室墳の墓域）の周囲に、弥生時代末～古墳時代初頭の住むところ（堅穴建物・集落域）が分かれて見つかった遺跡としても注目されます。



地下式板石積石室墓

海がここまでできていました

やつしろし しみずまちいせき
—八代市清水町遺跡の調査—

みなさんが知っているとおり、いまの八代はとっても広い平野です。その面積230キロ平米、東京ドーム17,700個分の広さです。清水町遺跡は、JR八代駅と八代城のちょうど真ん中にある遺跡です。八代平野の東端に奈良時代から平安時代にいとなまれた遺跡なのですが、なんと！砂利のうえにある遺跡でした。そう、むかしの海岸は、清水町遺跡のすぐ近くにあったのですね。

清水町遺跡の東には八峰山、竜峰山からのびる丘が、ちょうど舌のようにつき出しています。この丘には洗切遺跡があり、きれいに色づけられた奈良三彩や文字が書かれたうつわ、刃物や金具をつくった鍛冶工場、そして網のおもりにつかわれた土鍾などが発見されています。

清水町遺跡からは、洗切遺跡とおなじような土器や土鍾が数多く発見されましたが、家や倉庫のあとにはなにも見つかりませんでした。山の手の洗切遺跡でつかわれた品々が、磨川によって流れ着いた岸辺が清水町遺跡です。日本の国のかたちができるころ、ひろい八代平野のここあたりまで海はきていたのです。



発掘現場の様子

じょうもんじだい つづ せいかつ いと
縄文時代から続く生活の営み
たくま ゆげ いせきぐん
— 託麻弓削遺跡群 —

託麻弓削遺跡群は、熊本市東区弓削町にある遺跡です。調査区のすぐ北には白川が流れ、西側には金峰山、東側には阿蘇の外輪山の山々が見渡せます。白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴い、託麻弓削遺跡群4区は平成27年6月から平成27年11月までの期間で発掘調査を行いました。調査面積は約400㎡で、古代の遺構（柱穴が20基）が検出しました。

また、託麻弓削遺跡群5区は、平成27年6月から平成28年3月までの期間で、3,000㎡の面積を発掘調査しました。

古代（奈良時代～平安時代）の層では掘立柱建物跡が1軒、堅穴建物跡が8軒程、土抗が10基確認できました。カマドを伴う堅穴建物跡もあり、火を巧みに操っていたことが分かりました。

弥生時代の層では堅穴建物跡が13軒、土抗が13基検出されました。堅穴建物跡の中には、重なっているものもあり、川に近いということからも、住みやすい生活環境であったことが考えられます。

縄文時代の層では、縄文後期の土器の破片、磨製石斧や石鏃等の石器が多く出土しました。土器に刻まれた様々な文様を見ると縄文人の精神文化の豊かさを感じることができます。



託麻弓削遺跡群4区全景



託麻弓削遺跡群5区 カマドを伴う堅穴建物跡

かみなべ やよいじだい たても
上南部にあった弥生時代の建物
かみなべいせき
— 上南部遺跡 —

上南部遺跡は、白川中流域左岸に広がる遺跡です。調査面積は約4,793㎡で、3つの調査区に分けて調査を実施しました。2区からは弥生時代の堅穴建物跡が11軒発見されました（平成28年1月末現在）。方形の堅穴建物跡が10軒、円形の堅穴建物跡が1軒です。方形の堅穴建物跡は最も大きなもので、4.12m×3.58mの大きさで、他は1辺が3～4mの規模です。それに対して円形の堅穴建物跡は直径が6m程あり、一回り大きな遺構になります。

また、10軒の竪穴建物跡には明確な炉跡がありませんでした。寒いときに暖をとったり、調理をするときはどうしていたのでしょうか。もしかすると、今回調査をしている所以外に、共同で利用していた調理場などの施設があったのかもしれませんが。

今後の整理作業において精査し、今回発見した上南部遺跡の集落について解明していきたいと思います。



最も大きな方形の竪穴建物跡 (4.12m × 3.58m)



円形の竪穴建物跡 (直径約6m)

じつ くまもと げんかんぐち ほ
実は熊本の玄関口を掘っていました！
 にほんぎ いせきぐん
— 二本木遺跡群 —

二本木遺跡群は、熊本市西区春日から二本木にかけて広がる遺跡です。

坪井川右岸に位置するこの遺跡では、JR鹿児島本線等連続立体交差事業に伴って発掘調査が実施されています。これまで熊本県や熊本市による発掘調査によって、主に奈良・平安時代から近代まで千年以上にわたり人々が生活していたことが分かっています。

今年度の発掘調査では、主に奈良・平安時代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡など、当時の生活をうかがわせる遺構が数多く見つかりました。そして、これらの中から当時使用されていたさまざまな焼きものなどが出てきました。

今回の発掘調査をしたところはJR熊本駅の構内になりますが、熊本の玄関口である熊本駅のホームや線路の下には、こうした往年の人々の営みの跡が今でも眠っているのです。



井戸跡から見つかった容器

Japan heritage

日本遺産認定!!!

熊本県南部に位置する人吉球磨地域は、鎌倉時代から明治維新までの約700年間にわたって相良氏が治めた全国でも珍しい地域です。相良氏はウンスンカルタや球磨焼酎など民衆の文化を尊重しつつ、神社仏閣に都の建築様式を用いるなど新たな技術も取り入れ、国宝青井阿蘇神社などの神社仏閣や仏像が信仰の対象として大切に受け継がれてきました。

この「相良700年」に受け継がれた文化財や風習、地域の歴史を結びつけて紡がれた物語が、日本の文化・伝統の魅力を伝えるものとして、平成27年4月24日に日本遺産第1号に認定されました。(全国で18件が認定)

さがら 相良700年が生んだ保守と進取の文化
 ほしゆ しんしゆ
 ~日本でもっとも豊かな隠れ里 - 人吉球磨 ~

日本遺産
 ロゴマーク



写真：国宝青井阿蘇神社と臼太鼓踊り（人吉市提供）

くにしていじゅうようぶんかざい こもんじょ
国指定重要文化財（古文書）
 じょうすいじび つけたりてんぼう しゅうりきねんひ
浄水寺碑 附 天保二年修理記念碑

所在地：宇城市豊野町下郷字清水寺
 所有者：宗教法人豊野神社
 指定日：平成27年9月4日

8世紀から11世紀にかけて建てられた南大門碑、如法経碑、寺領碑、燈籠碑の4基の石碑および江戸時代の補修碑で、天長5年(828)に「定額寺」(※)になった浄水寺の規模や沿革等について記されています。古代(奈良・平安時代)においては、石に文字を彫ること自体が珍しく、現存する石碑の数は全国で17基と少なく、うち4基が浄水寺碑になります。また、1ヶ所にまとまって存在している点も他に例がありません。

浄水寺はやがて衰退しますが、天保2年(1831)、石碑が風化していくのを嘆いた地元住民によって1ヶ所に集められ、石製のカバーをかぶせました。このことを記した補修碑が南大門碑に隣接して建立されていますが、江戸時代における住民による文化財保護の先駆けとして高く評価されています。

このように、古代の大寺院浄水寺の跡地に残る南大門碑、如法経碑、寺領碑、燈籠碑からなる記念碑群は、全国でも数少ない古代の碑として、また1ヶ所にまとまって存在するものとして貴重なものです。

※定額寺とは、古代において、朝廷から官大寺・国分寺(国分尼寺を含む)に次ぐ地位(寺格)を持つ寺院に与えられた称号で、浄水寺は肥後国分寺に次ぐ寺格を有した大きな寺院であった。



浄水寺碑



天保二年修理記念碑

くにしていじゅうようぶんかざい ちょうこく
国指定重要文化財（彫刻）

もくぞう にてんのうりゅうぞう もくぞう び しゃもんでんりゅうぞう
木造二天王立像・木造毘沙門天立像

所在地 くまぐん ひかだきたこあさぎらも しやうふく じふと
 球磨郡あさぎり町深田北小学荒茂（勝福寺跡）

所有者 あらかも び しゃもんでんりゅうぞうのあひ
 荒茂毘沙門堂管理組合

指定日 平成27年9月4日

球磨郡の有力豪族 須恵氏が平安時代末期に創建したと伝えられる勝福寺跡に建つ毘沙門堂のご本尊と脇侍（お供）を含めた3体の木造仏です。

ご本尊の毘沙門天像（※）は、高さ約250センチの県内最大の木造毘沙門天像です。墨書きされた体内の銘文により、久寿3年（1156）に当時の領主の藤原（須恵）家永と妻が、一族に災いがなく幸せで長生きすることを願って、仏師僧経助に造らせたことが分かっています。

二天王像は、いずれも高さ140センチ弱で、うち1体（その一）は墨書きの銘文により、久安3年（1147）に仏師僧経覚が造ったことが分かっており、同じ様式のもう1体（その二）も同時代の作と判断されます。

平安時代における数少ない在銘の（銘文のある）仏像で、地方に中央の様式が受け入れられる過程を明確に示す良い例として、また平安時代末期の地方での仏像製作の状況を示すものとして高く評価されました。

なお、平成27年4月に日本遺産に認定された人吉球磨の歴史・文化ストーリーの構成文化財の一つになっています。

※毘沙門天とは？

北方を守護する仏で仏教と信者を守る四天王の一員。憤怒の相に武人の衣装をまとい、左手に宝塔、右手に金剛棒等を持ち、2体の邪鬼を踏みつけている姿で表わされる。



木造二天王立像（その一）



木造毘沙門天立像



木造二天王立像（その二）

そうしよくこふん こだい たいけん
装飾古墳と古代を体験する

そうしよくこふんかん しょうかい
—装飾古墳館の紹介—

装飾古墳館は、平成4年4月15日に開館した古代体験教室等を実施する“県民参加型”の博物館です。今年度、装飾古墳館が取り組んだ活動について御紹介します。

【教育普及—古代を見る—】

装飾古墳館では、年間16回の定期体験や体験イベント「古墳館へ5・5・Go」を実施しています。赤米体験教室は、山鹿市内の小・中学校、高校の協力のもと、古代米の一種である赤米を田植えから収穫、調理まで一貫して実施しました。

また、新たな取り組みとして、人吉・球磨・八代の小学校で地元教育委員会のご協力をいただき、文化課と共同で出前授業も実施しました。

【News —装飾絵柄データの提供開始—】

装飾古墳館では、熊本県内の装飾古墳の絵柄データについて無償提供を開始しました。

これらのデータは、報告書や写真などの画像を基に、新たにデザイン化したものです。

学校での授業や一般の方に利用をいただいています。

【調査研究—装飾古墳を視る—】

装飾古墳館では、装飾古墳の見学に適した、保存上影響の少ない時期を選定するために判断する根拠となる事前調査を実施しています。その結果をもとに、熊本県内の装飾古墳を対象に年2回の一斉公開を行っています。平成27年度は、10月24・25日に県内11ヶ所の装飾古墳で開催しました。

また、春の一斉公開は3月19・20日に実施しています。

【企画展示—博物館を観る—】

装飾古墳館では、年間5回の企画展を実施しています。現在、企画展V「原口文庫Ⅲ 近世肥後の庶民の生活」展（平成28年5月8日まで）を開催しています。

また、2月20日（土）には、講演会「近世菊池川を考える～林業と菰田船を中心に～」(講師 郷土史家 右山 幸介氏)も実施しました。

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館

〒 861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 TEL 0968 (36) 2151

装飾古墳館ホームページ <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp>

装飾古墳館フェイスブック <http://www.facebook.com/kofunkan>



赤米体験教室（稲刈り）



チブサン古墳の絵柄

きくちじょう おんこそうせいがん 鞠智城温故創生館の取り組み

史跡鞠智城跡は、今から1350年ほど前につくられた古代山城です。昭和42年から32回の発掘調査を実施し、貴重な遺構や遺物がたくさん発見されました。

温故創生館は、出土した遺物やパネル、映像をつかって鞠智城を紹介する資料館です。

鞠智城跡の特別史跡の指定を目指して、学術的な価値を高めるための調査・研究を行うとともに、県民のみなさんの歴史学習の場やいいの場とするための整備を進めています。

鞠智城跡の活用

鞠智城では様々なイベントを実施しています。毎年ゴールデンウィークには「みんなおいでよ鞠智城」というイベントを開催しており、この時は鞠智城のシンボル八角形鼓樓に登ったり、本物の土器や瓦にさわったりすることができます。いつもは中に入ることができない八角形鼓樓に登った人たちは、最上階からの眺めを楽しむとともに、古代の人たちの優れた建築技術に感心されます。本物の土器や瓦にさわった人たちは、1300年前につくられた古代の人が使っていたものをさわることができることにとても感動されます。中には、将来考古学を学びたいというお子さんもいらっしゃいました。また、防人なりきり体験では、古代のヨロイのレプリカを着ることができますが、参加した全員から「重い!」「動けない!」という言葉が聞こえてきました。

夏休みには、子ども体験フェスタを開催し、まが玉づくりや銅鏡づくり体験を実施しています。特に銅鏡づくりは人気で、鏡を鋳型から取り出すと、自分の顔がキレイに写り込むまでみな必死になって磨いていました。

このほか、鞠智城フォトコンテストも開催しています。毎年、たくさんの方からすばらしい作品が応募されます。その中には、小学生や中学生の方からの応募もありますが、子どもならではの視点でとらえた構図など非常におもしろい作品に仕上がっていました。

鞠智城跡に関するイベントや鞠智城イメージキャラクターころう君の活躍などの最新情報は、ホームページやフェイスブックページで随時更新していますので、そちらもご覧ください。

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館

〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原 443-1 TEL 0968(48)3178

鞠智城温故創生館ホームページ <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/>

鞠智城フェイスブックページ <http://www.facebook.com/kumamoto.kikuchijo>

さきもりころう隊オフィシャルサイト <http://cyber.pref.kumamoto.jp/korou-tai/>



鼓樓に登ろう



銅鏡作りの様子



ころう君

熊本県文化財資料室「展示・体験教室」



【かんぼって削ろう勾玉】



【鏡作り体験】

熊本県文化財資料室では、児童・生徒に向けて、夏休みと冬休み期間中に体験教室を実施しています。

夏休み期間の平成27年8月13日、14日には、『^{まがたまつく}勾玉作り体験教室』を行いました。冬休み期間中には例年「土器作り」を実施していましたが、今回の冬休み期間には、^{まうしやくこふんかん}装飾古墳館の協力を得て^{かがみいもの}鏡の鋳物作りに挑戦しました。

文化財資料室には熊本県が主体となった発掘調査で出土した鏡を保管しています。当日は子供たちに鏡の実物を見てもらい、「ピカピカの鏡を作ろう!」と呼びかけて鏡を作り始めました。光輝く鏡を作ろうと^{みが}磨き作業に熱中する親子の姿を見ることができました。



完成した鏡

裏



表

熊本県文化財資料室

冬休みは鏡作り
体験教室をしたよ!



【展示・体験学習棟】

熊本県文化財資料室は、埋蔵文化財発掘調査の出土遺物の収蔵・管理を行っています。

展示・体験学習棟もあり、一般公開および文化財普及活動も実施しています。

公開は月曜～金曜（祝祭日を除く）、午前9時～午後5時までです。

ぜひ、見学にいらしてください。

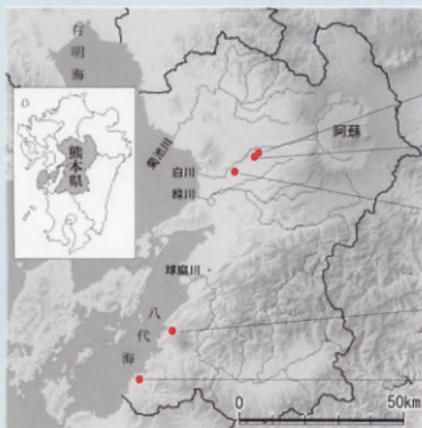


熊本県文化財資料室

〒861-4215 熊本県南市区城南町沈目1667番地
Tel : 0964-28-4933 Fax : 0964-28-7798

平成 27 年度 県文化課発掘調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構・遺物	調査期間
きたそのうえのこふんぐん 北園上野古墳群	水俣市ひばりヶ丘・陳内	古墳	土坑、竪穴建物、旧石器、縄文土器、古代須恵器	H27.6～H28.3
しみずまち 清水町遺跡	八代市清水町	古代	流路、土師器、土錘	H27.5～H27.10
たくまゆげ 託麻弓削遺跡群 (4区、5区)	熊本市東区弓削町	縄文～古代	石製丸槌・竪穴建物・掘立柱建物・土師器 須恵器・縄文土器・石器	H27.5～H28.3
かみなべいせき 上南部遺跡	熊本市東区上南部	弥生	竪穴建物、縄文土器、弥生土器、石器	H27.5～H28.2
にほんぎいせきぐん 二本木遺跡群	熊本市中央区春日	古代	土師器、須恵器、磁器	H26.5～H27.2



3 託麻弓削遺跡群

4 上南部遺跡

5 二本木遺跡群

2 清水町遺跡

1 北園上野古墳群



考古資料学習キット

考古資料学習キット

県文化課では、小・中学校の歴史学習の補助教材として、県内遺跡出土の主要な土器や石器を詰め合わせた『考古資料学習キット』を作成し、貸出しをしています。

本物の遺物に直接手でふれ、原始・古代の人々の知恵や工夫の跡を確かめてください。

【問合せ先】

熊本県教育庁教育総務局文化課

調査係 096-333-2706(2707)

熊本県文化財資料室 0964-28-4933

文化財通信くまもと第34号 平成28年3月31日

発行：熊本県教育委員会

TEL 096(333)2704 FAX 096(384)7200

編集：熊本県文化財資料室

TEL 0964(28)4933 FAX 0964(28)7798

印刷：有限会社 ソーゴグラフィックス

発行者：熊本県

所属：熊本県教育庁教育総務局文化課

発行年度：平成27年度